

自治体名			静岡県湖西市	所属名	浜名医師会（湖西市医会）・市役所長寿介護課	参加会場	名古屋（8/24）	
【 ●●県××市区町村】			１．利用者・住民	２．在宅医療	３．入院医療	４．在宅介護	５．多職種間の連携	６．庁内
現 状	①量的充足	事業所、施設、人材等の量 取組み体制 (ストラクチャー)	○人口 60,857人（2016年） 高齢化率25.5% 55,712人（2025年推計値）高齢化率30.2% 48,484人（2040年推計値）高齢化率37.1% ◎→人口は年々減少し高齢化率は増加見込み。 ○65歳以上人口 15,518人（2016）-16,815人（2025推計）-18,030人（2040推計） ◎→高齢者人口増加が予測される。 ○75歳以上人口 7,122人（2016年） 9,477人（2025年推計） ◎→高齢者人口に占める75歳以上の比率は年々増加。 ○要介護高齢者 1903人（2014年） 65歳以上認定率12.8% 1999人（2016年） 65歳以上認定率12.6% 2793？人（2025年推計） 65歳以上認定率推計16.6%？ 要介護高齢者は、2025年には2016年の約1.4倍になると見込まれる。	○診療所：24診療所 ○在宅療養支援診療所：1診療所 75歳以上人口1000人あたり0.14 ○訪問診療を行う診療所：5診療所 75歳以上人口1000人あたり0.7 ○訪問看護事業所：2事業所 75歳以上人口1000人あたり0.7 ○訪問看護ステーション従事者数（常勤換算）：11人（湖西5（3）人、浜名6（3）人） 75歳以上人口1000人あたり0.28 ○在宅訪問を行う歯科診療所： 20診療所 75歳以上人口1000人あたり2.8 ○在宅訪問を行う薬局：1薬局 75歳以上人口1000人あたり0.14 ◎県界に位置する市にて県外の在宅医療を利用することも多い	○病院数2 （急性期） ○市内病院病床数：一般病床245床 75歳以上人口1000人あたり34.4 ○湖西病院病床数：一般病床196床、療養病床0床、精神病床0床 ○浜名病院病床数：一般病床49床、療養病床44床、包括ケア病棟40床、介護療養病床44床 ○1病院に包括ケア病棟設置 ○三次救急を含む大規模病院、大学病院は市外にある。 ○地域連携型認知症疾患医療センター（隣市の中核市）がなく1時間近くかかる磐田市のセンターが管轄である。 ○在宅医療を支える後方病床が十便確保できていない。 ○2病院に退院支援窓口が設置され、ソーシャルワーカー等相談員が配置されている。 ○病院勤務医不足あり。医師おらず、湖西病院病床は実質103床の実情がある。（閉鎖中） ◎県界に位置する市にて県外の入院医療を利用することも多い	○居宅介護支援事業所：11事業所 75歳以上1000人あたり：1.54 ○地域包括支援センター：委託 4ヶ所 ○介護老人保健施設数： 1 施設100床 ○通所介護の事業所数：12事業所 75歳以上人口1000人あたり1.68 ○訪問介護の事業所数：4事業所 75歳以上人口1000人あたり0.56 ○介護事業所の離職が多く、常に人材が不足している。又不足して実質休業の事業所もある。 ◎県界に位置する市にて県外の在宅介護を利用することも多い	○多職種間研修会実施（医師会委託） ○医師会、歯科医師会、介護支援専門員連絡会がある。薬剤師会は浜松市に入り実施。 ○リハ職の地域活用の手立てがなかったが、県のとりまとめで研修及びは派遣システムが構築された。 ○在宅医療・介護連携の支援相談窓口設置検討中。（相談員としてふさわしい人材不足がある）	○在宅医療・介護連携推進事業は長寿介護課長寿係が担当。医療分野は健康増進課が主管課。 ○長寿介護課長寿係は、地域支援事業全てを所管。 ○在宅医療・介護連携推進事業の担当は2名。内1名は管理職で副担当。主担当は地域支援事業内認知症施策・地域ケア会議等を兼務し、地域包括支援センター業務・虐待等困難相談等副担当を兼務している。 ○介護保険の給付に関わる担当課は、長寿介護課介護保険係。
		提供されるサービス量 取組みの量 (プロセス)	○自宅で最期を迎えたい等住民調査なし ○看取り数等調査なし	○在宅歯科診療延件数175回 ○その他医療介護レセプトに関するデータ？ ○訪問薬局は市内に1件のみ 複数人いないと留守にできないため訪問困難	○診療に関する実績、加算等？ ○	○被保険者1人あたりの介護給付費：87,771千円 ○認定者 1 人あたりの介護給付費：1,623,816円 ○1号保険者 1 人あたりの介護給付費：199,383円 H28年度：介護給付費総計31億5345万995円 被保険者35,928人（1号15,815人、2号20,113人） 要介護認定者数1942人（12.6%） 1号保険者15,816人（26.2%）	○他職種連携実績？ 調査なし（情報提供率、紹介率等） ○湖西市医会に委託し、多職種合同研修会を年1回程度開催。多くの参加が得られている。 ○入院時の介護支援専門員による病院への情報提供書を作成し統一した形で情報提供ができています。 ○医療介護の実務者による会議（在宅医療・介護推進連絡協議会）を開催している。	
	②質的充足	提供されるサービスの質 取組みの質 (プロセス)	○看取り等在宅医療に対する実態調査や実績調査なし。 ○社協と自治会が主体で、見守り活動を行う地域はある。 ○湖西市医会にて市民講座実施している。	○在宅医療を支える後方病床として、浜名病院包括ケア病棟がある。 ○在宅医療を行う医師の負担がある。（資材や時間、診療点数等） ○在宅医療資源がまとめられていない。実施者が少ない。 ○医師会が在宅医療従事者向け研修を企画中。 ○薬剤師の在宅医療への参入が困難（開設時間内は薬剤師がいることが必須にて、複数人いる薬局もしくは時間外活動する薬局しか参入できない。	○認知症や精神専門医が市内にはない。市外に頼るが、30-60分近くかかる ○退院や在宅支援の窓口は各病院にでき実施できているが、介護職（CM等）等との連携が不十分である。 ○湖西病院が一次と二次救急の両方を担っている。（開業医による1次救急体制なしにて） 3次は市外に搬送。 ○病診連携は各病院内に実施。 ○公立病院は赤字経営で、現在経営管理者を公募している。	○ケアマネや事業所によって質や力量が異なるとの指摘が他職種から指摘がある。 ○居宅介護事業者間の連絡会議が自主的に運営されている。 ○介護従事者向け研修会を自主的に企画し実施している。 ○医療情報に乏しい介護関係者が多い。医療との壁が高い。 ○介護従事者獲得が困難。短期在職が目立つ。介護職員が市内他事業所へ移ることが目立つ等あり。	○医師会歯科医師会は市（健康増進課）が主事務窓口として協力体制あり。他事業ごとに担当課が打ち合わせ等行う体制。 ○介護保険法関連は、市（長寿介護課）が事務窓口となり各関係機関と協力連携体制。各種会議実施。 ○人口規模より、比較的医療系機関とは顔の見える関係ではあるが、薬局とはかわりは薄い。また介護関連では担当事業によっては顔は見えるが関係職員も多く十分とは言えない。 ○医療と介護関係者が同じく顔を合わせる機会が少なかったが、現在は多職種間研修が実施されるようになり、以前よりは顔は見えやすい。 ○医療に関しては一定の医師や歯科医師との協力体制や関わりとなっている。 ○入退院時の情報提供や介入が不十分。病院と在宅関係者との意見や方向性が合わない等十分な連携が取れていない。 ○入退院時における情報共有のルール普及が不十分。 ○情報連携ツール（シズケア）の利用率が低い。 ○退院調整の方向が在宅関係事業者や在宅医療医に十分に伝わっていない現状がある。	○市基本構想に地域包括ケアシステムの構築が掲げられ、第6期計画（高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）において、「在宅医療・介護の連携」を重点施策として取り組んでいる。 ○在宅医療・介護連携推進協議会立ち上げ。実務者レベルの会議とし関連する関係者に委員として参加いただいている。 ○県等開催の在宅医療・介護連携担当者向け研修に参加。 ○庁内においては、医療と介護の事務窓口が別であり、担当者及び医療と介護関係団体としては相談や情報集約もしにくい現状。
	③達成される目標 (アウトカム)		○介護認定率があがらない又は横ばい ○介護予防に力を入れ、新規介護認定率が増えていかない ○在宅医療に取り組む機関が増える					

【××市・町・村の在宅医療・介護における強みと弱み】

強み	○人口6万都市であり、比較的在宅医療や介護の関係者の顔は見えやすい。 ○在宅医療に熱心に取り組んでくださる医師や歯科医師がいる。 ○高齢化は進むが、要介護認定率は横ばいである。従来介護予防に力を入れてきた。 ○在宅医療・介護連携推進協議会が立ち上がり、連携機会が確実に持てるようになった。
弱み	○市の体制として包括的に医療と介護を考えるとところが存在しない。困ったところがやる又応急的対応となっている。 ○湖西市の在宅医療現状把握も十分でないうえ、在宅医療を支える状況や体制がなく、参入する医療関係者が少ない。敬遠？ ○医療と介護関係者が顔を合わせたり、意見を交わす場がほぼなかった。 ○湖西病院の方針が定まらない現状がある。従来地域医療への理解協力が十分ではないと感じている。 ○住民の在宅医療や介護に関する意識調査がなされていない。 ○市外の病院や診療所、介護施設との連携体制が整っていない。 ○専門医（精神・認知等）がおらず、受診まで1時間近くかかり、予約にも1か月近く待つこともある。 ○医師会と医会との兼合いがあり、窓口として行政として対応に苦慮することがある。 ○可能な限り在宅で生活するための市民の課題が把握しきれていない。